



伶楽舎



ダリオ・モレッティ © Marco De Scalzi

野村 誠

やぶくみこ © Toshie Kusamoto

7.7 土 今昔雅楽集 七夕の宴

七夕の宵、雅楽の“今”と“昔”が出逢う

文 篠田大基

7月7日は七夕。離ればなれの織姫と彦星が年に一度だけ再会する日とされています。この日、水戸芸術館では雅楽の演奏会を開催します。コンサートホールATMの舞台上でめぐり逢うのは、雅楽の千数百年にわたる歴史。その“今”と“昔”です。

雅楽をお聴きになったことはあるでしょうか？ ゆっくりとした音楽というイメージをお持ちではありませんか？ たしかに現在の雅楽は、ゆっくりと荘重に演奏されていますが、平安時代には、現在よりも相当速いテンポで演奏されていたことが分かっています。雅楽は、代々伝承されてゆくなかで、少しずつ、ゆっくりと演奏されるようになっていったようです。

雅楽は奈良・平安の時代からずっと変わらずに受け継がれてきたとお考えの方もいらっしゃるかもしれません。雅楽はたしかに歴史の古い音楽ですが、その歴史のなかでは失われてしまった楽曲や奏法も、じつはあります。現代では失われた奏法や楽曲を復元しようとする動きもあり、新しい雅楽作品を生み出そうとする作曲家や演奏団体も活動しています。「世界無形文化遺産」にも登録されている雅楽は、長い伝承を経て今も生きている芸術、「成長している伝統」といっても過言ではないでしょう。そんな雅楽の世界に、あらためて触れてみませんか？

この演奏会では、雅楽の世界を、①現在まで伝えられてきた古典曲、②楽譜だけが残り、演奏伝承が途絶えてしまった楽曲（再現演奏）、③現代の作曲家による雅楽の新作、という3つの側面からご紹介いたします。雅楽の公演でも、この3つが揃ったプログラムは珍しいのではないかと思います。雅楽の伝統のなかに息づく多様な音楽性——千年以上にわたる伝承とその先に生まれた新たな試み——を一夜にお聴きいただくとう企画しました。当代屈指の雅楽演奏家が集まる演奏団体「伶楽舎」。宮内庁出身の楽師で、昨年雅楽関係者で初めて文化勲章を受章した芝祐靖氏が結成し、音楽監督を務めている日本で最高峰の雅楽アンサンブルです。本紙では、伶楽舎に創立時から参加している宮丸直子氏による解説を交えつつ、演目をご紹介します。

平安貴族の歌舞の宴

演奏会の前半は、雅楽の古典を中心にお聴きいただきます。芝祐靖氏が雅楽の名曲や自身による復曲作品を組み合わせ作り上げた、上演時間40分にわたる舞台作品《露台乱舞》です。

◆芝祐靖 復曲・構成：露台乱舞

平安時代後期から室町時代にかけての宮中での歌舞の宴を再現したもので、雅楽古典曲と復元曲から成

る組曲。歌、管絃や舞が次々と披露され、演奏中に興に乗って、歌い出したり、立ち上がって舞い始める者があつたり、と、今日の雅楽からは想像できないほど、当時の貴族たちが自由に雅楽を楽しんでいた様子が描かれています。これまで国内外で何度も上演され、好評を博している作品。今回は七夕に因んで朗詠《二星》を入れて構成しました。（宮丸）

この《露台乱舞》の面白い点に、演奏会ごとに構成曲が入れ替えわるという特徴があります。宮丸氏がお書きになっている《二星》は、織姫と彦星を歌っており、この日にぴったりの選曲です。ほかにも学校の音楽の教科書にも取り上げられている有名な《越天楽》や、舞楽の《萬歳楽》に復元された今様《池の涼しき》が重なって演奏されるシーンなど、聴きどころや見どころの多い作品です。

伶楽舎《胡飲酒》演奏風景
左後方で龍笛を吹いているのが芝祐靖氏

遥かシルクロードから

古典を中心にした演奏会前半の演目に対して、後半では雅楽の固定観念を覆すような音楽が並びます。古くに伝承が途絶えてしまったと言われる舞曲〈曹娘禪脱〉の再現演奏には、現在は用いられない古代の楽器が使われます。

◆芝祐靖 復曲：曹娘禪脱 より

管絃の名手、希代の天才、今日では『陰陽師』の小説、漫画、映画で知られるようになった源博雅(918～980)が編纂した雅楽譜『新撰楽譜』にのみ記載されている曲で、早くに廃絶。芝祐靖が楽譜を解説、復元し、正倉院の復元楽器を含む合奏曲として再興したもの。〈角調調子〉という音調の曲に続いて〈序〉、〈禪脱〉、〈颯踏〉の楽章を演奏します。排簫、古代尺八、大箏、篳篥、笙、篳篥、方響、など、復元された古代楽器類は、こんな楽器が日本に伝えられていたのかと、驚くほど多彩な音色を響かせます。(宮丸)

曲を聴いてみると、これはたしかに、驚きの音楽でしょう。雅楽の演奏スタイルで復元されているものの、中央アジアの民族音楽を思わせるエキゾチックな節回しです。1981年に国立劇場で再興初演されたときには、誰も予想していなかった音楽が忽然と現れた、とセンセーションを巻き起こしたと言われていました。雅楽の曲や楽器のなかには、中央アジアや西アジアからシルクロードを辿って伝わってきたものもありました。雅楽の「原種」は、もしかするとこんな音楽だったのでは？と考えさせられる一曲ではないでしょうか。

新しい雅楽の世界へ

演奏会の最後は、③現代に生きる雅楽人の作品、現代に作られた雅楽作品として、笙奏者・宮田まゆみ氏による古代楽器・笙のための独奏曲〈滄海〉、そして武満徹による新作雅楽の名作〈秋庭歌〉で締めくくります。

◆宮田まゆみ：滄海

笙は笙と同族の楽器で、笙より1オクターブ下の音域を奏する楽器。早くに廃絶してしまいましたが、これを復元したところ、柔らかく美しい音色が甦りました。国内外で活躍する宮田まゆみは伶楽舎メンバーであり、この曲について「笙の音は天に立ち昇るような印象ですが、笙は深い海にゆっくりと遊ぶような響きです。この楽器の音色に惹かれ、仙人の棲む伝説の海「滄海」の名を借りて〈滄海〉と題する小品を作りました」と述べています。(宮丸)

◆武満徹：秋庭歌

現代雅楽の草分け的作品であり、かつ現代雅楽の傑作。1973年に国立劇場の委嘱によって作曲され、1979年に、この〈秋庭歌〉を第4曲に置いて、演奏者29名、前後に5曲が加筆された大曲〈秋庭歌一具〉となりました。楽器編成は雅楽の「管絃」を元にしながらも、独自の工夫で構成、配置され、17人の演奏者は4つのグループに分かれて演奏し、特別な音響空間が演出されます。曲中、雅楽の古典に倣った奏法が幾つも取り入れられており、いずれも武満ならではの鋭い感性で捉えられ、作品の中に見事に生かされています。伶楽舎では創立以来、〈秋庭歌〉〈秋庭歌一具〉の演奏を続けており、一昨年は、〈露台乱舞〉と〈秋庭歌一具〉のプログラムが評価され、佐治敬三賞を受賞しました。(宮丸)

〈秋庭歌〉は今日、雅楽の「新しい古典」と言ってよいほどの名作として評価されています。伶楽舎音楽監督の芝祐靖氏は、この作品との出逢いをきっかけに、雅楽のより豊かな演奏を目指して宮内庁を退職、伶楽舎を結成したといっています。いわば伶楽舎の原点となった音楽。この作品が1973年に初演されたとき、プログラムに武満が寄せた文章には、この曲の演奏を聴くときにぜひ皆さまに思い出していただけたらと思う、印象的な言葉があります。彼は〈秋庭歌〉を作曲するにあたって、次の

ように心がけたといっています。

「私たちの遠い祖先が先進文明にはじめて触れた愕きを、私自身のものとして失わないようにすること。〔中略〕ただ、音の中に身を置きそれを聴きだすことにつとめる。」

雅楽の音の中に身を置いて、七夕の夜に、「愕き」にあふれた(ワンダフルな)ひとときをお過ごしいただければ幸いです。開演前には楽器紹介を中心とした伶楽舎メンバーによるプレトークも予定しております。



宮田まゆみ(笙・笙)

今昔雅楽集 七夕の宴

7/7 (土) 16:30 開場 16:45 プレトーク
17:00 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

全席指定 一般 ¥3,500

ユース(25歳以下) ¥1,000 円

出演 伶楽舎

曲目 芝祐靖 復曲・構成：露台乱舞

白薄様、平調音取、越天楽、二星、

阿音三返、早髪多々良、王昭君、

萬歳楽、池の涼しき、伊佐立奈半

芝祐靖 復曲：曹娘禪脱 より

(正倉院復元楽器版)

角調調子、序、禪脱、颯踏

宮田まゆみ：滄海

(笙独奏：宮田まゆみ)

武満徹：秋庭歌

8.5 回 小さな聴き手のためのコンサート テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ「うつくしいまち」 水戸のまちから生まれる、ちょっぴりおかしくてしあわせな舞台作品

文 高巢真樹

この夏は、音楽と美術でつづる舞台「うつくしいまち」をご家族で楽しみませんか？出演は、音楽や美術、演劇の垣根を軽やかに超えるユニット、テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ。メンバーは、イタリアの演出家で美術作家でもあるダリオ・モレッティ、国内外で数多くの人を巻き込んで共同作曲を行うなど、独創的な活動で高く評価されている音楽家／作曲家の野村誠、ジャワガムランなどの楽器を用いた多彩な音楽活動を展開している、やぶくみこの3人です。

今回お届けするのは、昨年彼らが城崎で創作し、今後様々なまちを訪れながら育てたいと考えている舞台「うつくしいまち」。自由で軽やかな即興演奏にあわせて、詩的でユーモラスな絵が次々と描かれ、子どもから大人まで楽しめる作品です。今回彼らは水戸のまちに滞在し、様々な風景や音に出会います。ワークショップでは水戸芸術館を飛び出し、水戸市植物公園と茨城県立歴史館を訪れ、子どもたちと創作活動を行います。そうして「水戸版」「うつくしいまち」が生まれ出されようとしています。3人のアーティストが「音で描き、絵で奏でる」のはどんな世界でしょう？ぜひ一緒に旅をするような気持ちでお楽しみください！チラシは、ダリオさんの原画を元に3パターンあります！ぜひお手にとってご覧くださいね。

現在イタリア、香港、日本と各地で活動中のメンバーにお話を伺いました！

interview

——「テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ」(以下 TMI) は、日伊外交 150 周年 (2016 年) の結成以来、淡路島、マントヴァ、兵庫県豊岡市と、各地に滞在して創作活動を行っています。各都市で特に印象に残っていることを、ぜひ教えてください。

野村：淡路島では、ダリオさん、やぶさんが、言葉は通じないのに、料理をしながら仲良くなっていきました。ダリオさんは、変な声を出したり、カラ

ダを動かす体操をしたり、面白いおじさんだー、と思いました。一緒に変なことをいっぱいやって、言葉をこえて友達になりました。

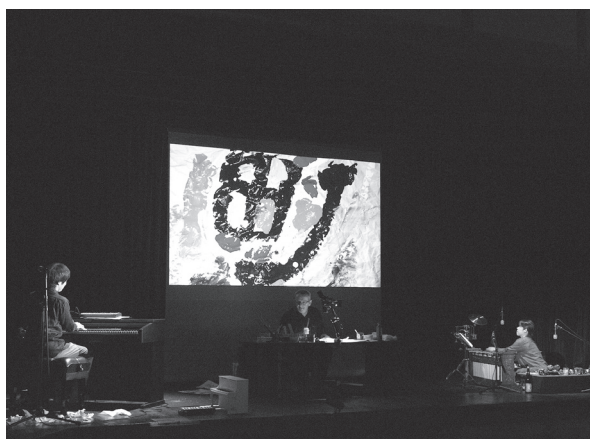
イタリアでは、その昔モーツァルトも演奏に来たビビエナ劇場のステージで演奏しました。飛行機も電車もない時代に、オーストリアからイタリアまで遠征するのは、今

の時代に、日本からイタリアに行くくらいには、遠く感じだろうな、と思います。18 世紀のモーツァルトの時代にタイムスリップしたような気分でしたよ。マントヴァは小さな町ですが、昔の建物がいっぱいあります。そうした場所で、子どものためのフェスティバルをやっているのです。町のあちこちで、大人も子どもも一緒になって楽しんでいます。歩いたり自転車でもわれるフェスティバルなんです。ダリオさんは、超有名人で、みんなから声をかけられていました。この町のスーパースターなんだなあ、ということが理解できました。

城崎は、自然の素材を拾い集めるために、色々なところに出かけました。まつぼっくり、葉っぱ、貝殻、石、いろいろなものを拾いました。ガラクタを集めているようで、それらが宝物なんです。水戸でも、何か拾いに行きたいです。

——「うつくしいまち」という舞台は、昨年の城崎国際アートセンター滞在を通じて創作されました。各地を旅しながらこの作品を育てることについて、どんなことをお考えですか？

やぶ：それぞれのまちは住む人が違い、そこで大切に育てられてきたこと、言葉、場所、食べ物によって個性が出てきます。それでもどこにいても変わらない豊かに暮らしていきたいという気持ちはすべての人に共通する思いでもあります。まちの個性を作品に活かす



© igaki photo studio

ことで街や人々への愛着を再発見したり、作品もおもしろく、その土地でしか共有できない、かけがえのないものに育つと確信しています。

野村：人は、実は毎日、少しずつ変化しています。何を食べたかとか、誰と会ったかとか、そうしたことで、少しカラダが変わったり、感じ方が変わったりします。舞台作品も、実は毎日、少しずつ変化しているのです。だから、昨年の城崎での「うつくしいまち」と、今年の水戸での「うつくしいまち」は、ちょっと違います。水戸で、皆さんと素敵な夏休みを過ごすことで、「うつくしいまち」は、ちょっと成長できると思います。そして、今後も、「うつくしいまち」を大切に育てていこうと思っています。

ちなみに、1995 年に水戸でつくった「でしでしでし」(※1) は、その後、イギリス、オランダなどでも演奏されて、今年も東京でも演奏しました。2002 年に水戸でつくった「せみ bongo」(※2) は、CD も楽譜も出版されて、何度も上演されています。2008 年の水戸で生まれたアコーディオン曲「Art Tower Mito」(※3) は、オランダで演奏されて以来、主にヨーロッパで演奏されています。「うつくしいまち」での水戸の経験も、その後、世界の各地に広がっていくと思いますよ。

(※1) でしでしでし：当館の現代美術ギャラリーでの展覧会「ジョン・ケージのローリーホーリーオーバー・サーカス」の関連企画「ジョン・ケージのオーディトリウム」にて初演された。2台ピアノ、ロックバンド、吹奏楽という編成の作品。



写真提供：城崎国際アートセンター

(※ 2) せみ bongo: 当館のファミリーワークショップ「音遊び・箏遊び」を通じて生まれた、箏のアンサンブルのための作品。

(※ 3) Art Tower Mito: 当館のファミリーワークショップ「いいカモ！ 鍵ハモ！」を通じて生まれた作品。

——ダリオさんはこれまで数々の舞台を通じて、子どもという存在と向き合っています。子どもと接するときに大切にされていることがありましたら教えてください。

ダリオ：これまでずっと子ども達のための作品を創ってきたのは、子ども達が一番正直な観客だと信じているからです。そんな彼らには詩、音楽、視覚的な表現から吸収出来ることがたくさんあるはずです。

彼らが抱くファンタジーやイメージーションが膨らむよう助けたり、そのための刺激を与えたりしながら、驚き、遊び、快活さ、想像や即興できる発想に繋がっていく素晴らしいポテンシャルを持ち続けていられるよう、助けてあげるからこそが私達の使命だと思います。

——野村さんはこれまで、世界各地で多くの方と共同作曲したり、即興演奏をされています。そうした音楽作りの醍醐味について、教えてください。

野村：音楽は、一人でもできますが、二人、三人、大勢で演奏すると、また一人とは違ったことができます。みんな違う音を出して、合わせてみると、不思議な響きになったりするので。あと、みんなが、それぞれの持ち味で音を出すと、複

雑な音になります。ピアノを弾く時、親指は親指らしい音、小指は小指らしい音で弾くのがいいんだよ、とショパンという作曲家が言っていますが、その通りだと思います。みんな、自分らしい音を出すこと。みんなと合わせることは大切だけれども、合わせ過ぎて自分らしさを消すのは、もったいない、と思います。

——今回は子どもたちと一緒に、ワークショップ「野村さん、やぶさんと音楽をつくらう！」を水戸市植物公園で、「ダリオさんとお絵描きしよう！」を茨城県立歴史館内・旧水戸農業高校本館で開催します。どんなことをやってみたいとお考えですか？

野村：楽しいことしましょう。ちょっと変なことしましょう。楽器じゃないものでも、音を出してみしましょう。植物に音楽を聴いてもらったり、植物から音楽を考えたりもしましょう。

やぶ：音楽を奏でる場所によって音の響きや聴こえ方、それによって楽器の鳴らし方も変わってしまうことをいっしょに体験したいです。またほかの人といっしょにやることで、一人で演奏するのは出会えなかった音にも出会えるのを楽しみにしています。

ダリオ：子ども達としたいと思っているのは、とにかく彼らに負けず、予想もしないようなことを、常に先回りして提示していく、ということです。子ども達と何かをするというのは、実は難しく、集中してもらうためには、常に彼らの興味の中心にいる必要があります。なので、絵を描くワークショップ、とは言っても、参加型パフォーマンスのように見えるかもしれません。でもこれが、遊んでいるときのよう、子ども達が積極的、かつクリエイティブになれる方法だと考えています。

——公演に向けての思いやお客様へのメッセージをお願いいたします。

ダリオ：水戸という町は知らないのですが、「Mito」と言うと、イタリア語では、神話を意味します。寓話や伝説、そし

て冒険や感情の嵐、そういったことを思わせる名前の町です。だから、そんな空想に少しでも触れられることさえ出来たら、きっと十分でしょう！

野村：TMIの3人は、子どものような大人です。いや、大人のような子どもかもしれません。頭で考える前に、クンクン匂いをかぎます。ここは、にどうぞ！これは、面白い！そうやって、つくっています。かつて子どもだった大人たち、これから大人になる子どもたち。ぜひ、水戸芸術館でお会いしましょう。「うつくしいまち」は、1時間もない短い旅ですが、それは、何億年もの旅かもしれないし、一瞬かもしれない。宇宙の果てまでの旅かもしれないし、隣の台所までの旅かもしれない。その時間を、皆さんと一緒に旅行できたら、本当に幸せです。そして、「うつくしいまち」を観た後には、いつも見慣れた風景が、違って見えてくるかもしれません。木が語りかけてくるかもしれません。壁の模様が顔に見えてくるかもしれません。ぼーっと見ても楽しいし、考え事しながら見ても面白いし、自分でお話をつくっちゃってもいい。「うつくしいまち」は、いろいろな楽しみ方をしてもらっていいんです。みなさん、お待ちしております！

2018年5月メールにて

聞き手：高巢真樹

※インタビューの全文は、水戸芸術館スタッフブログにて掲載しています。

小さな聴き手のためのコンサート テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ 「うつくしいまち」

8/5 (日) 14:00 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

出演：ダリオ・モレッティ (共同演出・美術)

野村誠、やぶくみこ (共同演出・音楽)

全席自由 一般 1,500 円、

3 歳以上 12 歳以下 1,000 円

以下、関連プログラム詳細は、水戸芸術館ウェブ
サイトやチラシをご覧ください。

◆「こども・こらぼ・らぼ 2018」ワークショップ

①「野村さん、やぶさんと音楽をつくらう！」

(8/11 水) 会場：水戸市植物公園

②「ダリオさんとお絵描きしよう！」

(8/21 木) 会場：茨城県立歴史館内 旧水戸農業高等学校本館

◆「まちにぬりえをしてみよう！」

(ぬりえ提出必切：8/31 金)

ぬりえの台紙はウェブサイトからダウンロードできます。
当館エントランスホールでも配布しています。



原画「La città nello spazio (宇宙のまち)」
© Dario Moretti

7.21^土22^日 高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

水戸室内管弦楽団メンバーが高校生をレッスン コンサートも

文 篠田大基

水戸室内管弦楽団（MCO）ゆかりの演奏家たちが高校生にレッスンをを行い、オーケストラの演奏会では聴くことのできない室内楽やソロの演奏も披露する「公開レッスン&ミニコンサート」を、7月21、22日の2日にわたって開催します。両日とも受講生は8月に開催される全国高等学校総合文化祭に茨城県代表として出場する団体。7月21日は弦楽合奏のレッスンで、県立勝田高校、土浦第一高校、並木中等教育学校による、茨城県合同弦楽合奏団を中村静香さん（ヴァイオリン）、店村眞積さん（ヴィオラ）、堀了介さん（チェロ）が指導します。レッスンではエルガーの〈弦楽セレナー

ド〉を取り上げ、コンサートでは講師の三重奏でベートーヴェンの〈セレナード〉をお贈りします。国と時代の異なる2つのセレナードをお楽しみいただけることになります。翌22日は吹奏楽のレッスン。取手聖徳女子高校吹奏楽部が講習を受けるヴァン・デル・ロースト〈いにしへの時から〉は難易度の高い吹奏楽曲。猶井正幸さん（ホルン）を中心にした木管、金管、打楽器の講師陣の指導は分かりやすいと毎回好評です。多彩なプログラムのコンサートにもご期待ください。

高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

7/21^土22^日 14:00 開場 14:30 開始

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

入場無料（要入場券）

入場券配布場所 水戸芸術館、茨城県立県民文化センター、ノバホール

講師 7/21 中村静香（ヴァイオリン）、
店村眞積（ヴィオラ）、堀了介（チェロ）
7/22 岩佐和弘（フルート）、
四戸世紀（クラリネット）、
小山弦太郎（サクソフォン）、
猶井正幸（ホルン）、
若林万里子（トランペット）、
呉 信一（トロンボーン）、
望月岳彦（打楽器）

受講団体 7/21 茨城県合同弦楽合奏団

7/22 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校吹奏楽部

主催 茨城県、茨城県教育委員会、（公財）水戸市芸術振興財団

8.11^{土・祝} ピーすプロジェクト

“水戸市平和大使による作文朗読発表会とパイプオルガン・プロムナード・コンサート”

文 中村 晃

太平洋戦争終結から70数年。終戦を迎えた8月を「戦争と平和を考える月間」として、風化しつつある「戦争」と「水戸空襲」の記憶を若い世代に伝え、平和の大切さを皆で考える「ぴーすプロジェクト」。その一環として8月11日（土）にエントランスホールで、水戸市主催の「わたしたちの平和」作文コンクールで優秀な成績を収めた2人の小中学生の朗読発表とパイプオルガンの演奏をお届けします（13:00 開演・入場無料）[水

戸市市民協働部文化交流課との共同制作]。オルガン演奏は、世界的権威のあるフランスのシャルトル国際オルガンコンクールで優勝し、パリのノートルダム大聖堂などヨーロッパ10か国以上でリサイタルを行う石丸由佳さん。クーブラン：〈教区のためのミサ〉より、J.S. バッハ：〈われを憐れみたまえ、おお主なる神よ〉BWV 721、ヴィドール：〈バッハの思い出〉より〈マタイ受難曲 - 終曲〉、J.S. バッハ：〈パストラーレ へ長調〉

BWV 590 より第3曲アリア、ヴォーン・ウィリアムズ：〈ロージメードルによる詩篇前奏曲〉が演奏されます。

また、8月12日（日）には、引き続き石丸由佳さんの出演で、「プロムナード・コンサート夏休みファミリースペシャル」を開催します（13:00 開演・入場無料）。ヴェルディ：歌劇『アイダ』より〈凱行進曲〉など、子供から大人まで楽しめるプログラムをお楽しみください。

2018.4.25

レ・ヴァン・フランセ

当代随一の木管アンサンブル「レ・ヴァン・フランセ」が登場し、「これぞ室内楽の醍醐味！」という熱演を聴かせてくれました。公演前に開催した、学生＆友の会会員様向けの「公開リハーサル」では、本番のプログラムでは予定されていないドビュッシー〈小組曲〉を全曲演奏していただき、旺盛なサービス精神で参加者を楽しませてくれました。また休憩時間は、舞台袖に備品として置いてある拡声器を試してみたり（！）と遊び心たっぷりでしたが、いちど舞台に登場すれば、超一流のソリスト陣の音色はどこまでも艶やか。特に後半のフランスものでは、気心知れた奏者ならではのチームプレイで変幻自在な演奏を聴かせ、粋で愉悅に満ちた「フランスの風」が会場を大いに沸かせました。アンコール曲は、ドヴォルザークのピアノ五重奏曲 イ長調 作品

81 より第3楽章、そしてドビュッシーの〈小組曲〉より“小舟にて”。《高楽》

■とてもすばらしい演奏でした。まるで一つの楽器であるかのような、素晴らしいアンサンブルです。メロディの移り変わりは楽器の個性がしっかり出つつ、でも後に続く人への受け渡しが完璧。より美しい曲へと昇華させる。皆さんの気持ちが一つになってないと、できないことですね。ホント聴きほれました。（水戸市の方）■テュイレ、イペールの曲は、学生時代を思い出しながら楽しく聴かせて頂きました。ミヨウの不思議な世界観、そしてラストにふさわしいブーランク、圧巻でした。感動をありがとうございました。（水戸市の方）■室内楽というジャンルは、「作曲家の肉声」が一番ダイレクトに聴く者に届く音楽だと感じた。それは演奏者が一流であることの証であることにほかならない。（日立市の方）

最近の公演から



1-2: レ・ヴァン・フランセ

《第九》コーラス参加者募集！

水戸芸術館では、年末に開催する「水戸の街に響け！300人の《第九》」のコーラス参加者を募集いたします。詳しくは、応募要項をご覧ください。
【公演日】 2018年12月9日（日）
【演奏曲】 ベートーヴェン〈交響曲第9番〉第4楽章
【応募資格】 9月～12月に水戸芸術館で行う練習に参加できる方（経験不問）
【参加料】 2,000円
【応募締切】 7月29日（日）
【応募要項の請求方法】
 ①水戸芸術館窓口にて直接入手
 ②水戸芸術館ホームページからダウンロード
 ③82円切手を貼付し返信先を記入した定形封筒を同封の上、下記宛先に郵送
 ※水戸芸術館ホームページにてオンライン申込も受け付けています。
【お問い合わせ】 水戸芸術館音楽部門《第九》係（担当：関根、鴻巣、小野瀬）
 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
 TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

チケット・インフォメーション

《6月30日（土）発売分》
■Coro La DIVA 3rd コンサート
 9/2（日）14:00 開演
 料金【全席自由】一般 ¥1,500 / 大学生以下 ¥1,000
■茨城の名手・名歌手たち 第28回（司会：宮本文昭）
 9/8（土）18:00 開演
 料金【全席自由】 ¥1,500

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり（20席以上） △…残席わずか（20席未満） ×…残席なし
 中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
 ◎今昔雅楽集 七夏の宴（出演：伶楽舎）……………7/7（土）中央×、左右○
 ◎小さな聴き手のためのコンサート テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ「うつくしいまち」……………8/5（日）自由席○
 ◎イェルン・ベルワルツ（トランペット）&クリスチャン・シュミット（オルガン）デュオ・リサイタル……………9/10（月）1F○、2F△（エントランスホール）
 ※6/6（水）現在の状況です。 ※固席売りが売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な7・8月のスケジュール

コンサートホール ATM

■今昔雅楽集 七夏の宴（出演：伶楽舎）
 7/7（土）16:45 伶楽舎メンバーによるプレトーク、17:00 開演
 料金【全席指定】一般 ¥3,500 / ユース（25歳以下）¥1,000
■高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート
 7/21（土）弦楽合奏、22（日）吹奏楽 各日 14:30 開始 入場無料（要入場券）
 入場券配布開始：6/19（火）
 入場券配布場所：水戸芸術館、茨城県立県民文化センター、ノバホール
■小さな聴き手のためのコンサート テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ「うつくしいまち」
 8/5（日）14:00 開演
 料金【全席自由】一般 ¥1,500 / 3歳以上12歳以下 ¥1,000
■《第50回記念 水戸市芸術祭》
 □市民音楽会特別コンサート 木村大ギター・コンサート
 7/15（日）12:00～12:40 入場無料【全席指定】要事前申込み
 【お申込み・お問い合わせ】TEL:029-291-3846（水戸市文化交流課）
 □市民音楽会 7/15（日）13:00 開演 入場無料【全席自由】
 □少年少女合唱祭 7/29（日）14:00 開演 入場無料【全席自由】
 □ジュニアオーケストラ演奏会 8/19（日）14:00 開演 料金【全席自由】¥500
 □交響楽演奏会 8/26（日）14:00 開演 料金【全席自由】¥1,500

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート（入場無料）
 □7/1（日）阿部翠 12:00～12:30

□7/16（月・祝）マルタン・グレゴリウス 13:00～13:45
 □8/11（土・祝）《び～すプロジェクト》関連コンサート 石丸由佳 13:00～13:45
 □8/12（日）《夏休みファミリースペシャル》石丸由佳 13:00～13:45
 □8/25（土）千田寧子 12:00～12:30 / 13:30～14:00

ACM 劇場

■白石加代子「百物語」シリーズ アンコール上演
 7/8（日）14:00 開演
 料金【全席指定】S席 ¥5,000 / A席 ¥4,500 / B席 ¥3,500
■ゆうくとマットさんの『シップ船長といつかのイットちゃん』
 7/21（土）15:00 開演、7/22（日）、27（金）、29（日）各日 11:00 開演、
 7/28（土）11:00 / 15:00 開演
 料金【全席指定】大人 ¥2,300 / こども（3歳以上小学6年生以下）¥1,000
■未来サポートプロジェクト vol.12 ミュージカル『in touch』
 8/17（金）18:30 開演、8/18（土）13:00 / 17:00 開演
 料金【全席指定】S席 ¥5,000 / A席 ¥4,000 /
 A席学生 ¥2,000（大学生以下、当日要学生証）

■《第50回記念 水戸市芸術祭》

□バレエフェスティバル 7/1（日）14:00 開演 料金【全席指定】¥500
 □演劇フェスティバル
 ・舞踊劇団「創（生まれる）」『どこにもいない神様!ピア&ふあいずUtopia!!』
 8/24（金）18:00 開演 料金【全席自由】¥1,500
 ・演劇フェスティバル実行委員会『オイル』
 8/25（土）18:00 開演、8/26（日）13:00 開演 料金【全席自由】¥1,500
 ・茨城大学演劇研究会『小さなお茶会。』
 8/31（金）18:30 開演 料金【全席自由】一般 ¥1,000 / 大学生以下 ¥800
 ・演劇ユニットこれっきり『ルールルルーチン リリスアンド アンドリムブリグレーション』
 9/1（土）17:30 開演 料金【全席自由】一般 ¥1,000 / 大学生以下 ¥800
 ・劇団 OH-NENS『こどもの一生』
 9/2（日）16:00 開演 料金【全席自由】一般 ¥1,000 / 大学生以下 ¥800

現代美術ギャラリー

■《第50回記念 水戸市芸術祭 美術展覧会 第2期（書・写真・デザイン）
 6/19（火）～7/8（日）9:30～18:00 ※入場は17:30まで
 入場無料 【休館日】月曜日
 同時開催：水戸の風 2018 6/19（火）～7/8（日）
■内藤 礼一 明るい地上には あなたの姿が見える
 7/28（土）～10/8（月・祝）
 【休館日】月曜日、9/18（火）、25（火） ※9/17（月・祝）、24（月・振）は開館
 【開館時間】7/28（土）～8/31（金）9:30～18:00 ※入場は17:30まで
 9/1（土）～10/8（月・祝）9:30～17:00 ※入場は16:30まで
 【入場料】一般 ¥900 / 前売り・団体（20名以上）¥700
 ※高校生以下・70歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料
■夏休みのアート体験！「こども・こらぼ・らぼ 2018」
 7/29（日）、8/1（水）、2（木）、8（水）、9（木）、11（土・祝）、12（日）
 【受付期間】7/1（日）～5（木）（応募者多数の場合は抽選）
 ※申込み方法、プログラム等詳細はチラシまたはホームページをご覧ください。
 （情報は6月下旬公開予定）

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000
 営業時間：9:30～18:00（月曜休館）
 公演内容や企画に関するお問い合わせ
 水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118
 ホームページ <http://www.arttowermito.or.jp/>
 公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>
 ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場
 @ConcertHall_ATM @art_tower_mito
www.facebook.com/arttowermito

編集後記

コンサートホールでのラジオ番組公開収録に、ピアノ譜めくりで参加してきました。生放送でなくても、各パートを設定時間ちょうど00秒に収めるMC・スタッフの技術に感動。時間にルーズな私には厳しい世界です。（り）

近所の公園ではもうすぐあじさい祭りが開催されるそうで、フライングしてお散歩してきました。園内は池や小さな川もあり、意外と涼しくて快適！最近引っ越しをしたため、近所の散策が楽しい毎日です。（咲）

吹奏楽に関わる事業を担当し、夏が近づくにつれてピリッとしてくる吹奏楽部の皆さんを見ると懐かしさを感じます。吹奏楽部から離れて十数年になりますが、音楽室の匂いや練習の音はまだ身体に深く刻まれています。（鴻）

雅楽の何に自分は惹かれるのだろう？音の生命感かなと考えた。千年以上の歴史をもつ楽器の音。その音そのものに生きているような存在感がある。音霊といふべきか。生演奏で雅楽の音の現前を体験していただけたら。（篠）

絶対音感が齢とともに低くなってきた。ピリオド楽器の演奏をよく聴くせいもあるのか。ウィーン・フィルのブラ4を聴くと「ファ」で終わるように聴こえるが、実際は「ミ」だ。これが結構気持ち悪かったり。（て）

自分にとって英語は頼れる仕事仲間、フランス語は不思議と絆を感じる好きな音、最近始めたイタリア語は劇場のような街角。言葉の旅は目くらむほど果てしない。ジュンバラヒリ『べつの言葉で』を読んで思ったこと。（樹）

生ける伝説アルゲリッチ氏。MCO楽員を音楽仲間として賞賛し、緑溢れるホテルや街並みを気に入り、水戸は特別な街だ！とお褒め頂いた。その奇跡的演奏の実現には、氏が絶大な信頼を寄せる伊藤京子氏の存在が大きい。（中）

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴロ」
 2018年6月発行 第227号
 編集発行：水戸芸術館音楽部門
 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
 TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
 E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp